

仕事人秘録

1984年の株主総会で河内氏は取締役総務部長に就任する。

総務部長といながら仕事は与えられず、ヒマでしようがない。「幸枝ちゃん、座って見ていたら分かるから」と専務には言われました。後で考えるとヒマだったのが本当に良かったのです。

机に座ると目の前にロッカーがありました。中には財務書類がずらっと並んでいます。経営者の娘なので、どの資料を触ってもだれも文句を言わない。それをいいことに、端から1冊ずつ眺めていました。そのうち「この数字を表にしたら面白いかな」と一覧表やグラフを作り始めました。だんだん面白くなっ

看板商品がトップ育てる ⑥

マロニー社長 河内 幸枝氏



10年分の経営数値を1冊に書き込んだ「10年手帳」は3冊目になった

数字から会社読み解く

必需品だ。

私の場合手で書くことで数字がつかめ、頭に入ります。見ているだけでは、聞かれたときにパッと数字を答えられないのです。手帳には事業所や商品別の売り上げ、製造原価、税引き後利益、人件費などを月次で記録しています。47都道

で、身軽になりました。

総務部長として数字と格闘していたころ、何の根拠もなく直感で「普通にやっていたらマロニーという商品の市場は10億円だ」と思いました。一方、会社の売上高は85年に念願の15億円の壁を超えました。「これは社員の熱意にほかならない」。社員の頑張りを支援するためにも、広告宣伝でブランド力を高めなければと思いました。

て、売り上げや従業員の賃金などの数字を興味の赴くままノートに書き写し、整理していききました。

財務の知識はまったくなかった。「もうかっているのになんで借金があるの」などと周囲の人に納得するまで何でも質問しました。「そういう仕組みになっていますから」と言われるのか」として聞くので

府県別の売り上げの比率など、自分に必要なデータはすべて書き込んでいます。数字は会社の状態や事業環境の変化を如実に映し出します。数字から事実を読み解く習慣が経営判断に役立っています。最初の10年分を書き込んだ1冊目のころは肌身離さず持ち歩いていました。3冊目となった

今は、信頼できる幹部に聞けば数字を答えてくれるの

き進むタイプなのかもしれません。「会社のことはずべてお金に換算して考えるんだよ」と誰かが教えてくれた。あるとき、数字を見ていたらこれまで会社が生きてきた道筋がすっきりと見えてきました。

10年分の経営数値を書き込んだ「10年手帳」が

経営・人事

